

田沼駅周辺のにぎわい創出

地域：佐野市田沼駅周辺地域
地域パートナー：佐野市産業政策課
佐野市地域おこし協力隊

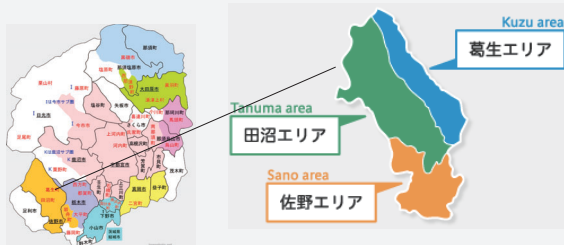
12班 コミュニティデザイン学科
建築都市デザイン学科
社会基盤デザイン学科
グループ指導教員

望月 康平
加藤 侘奈 常井 壮太
武田 咲姫 榎本道一
吉田 幹太
長田 哲平



01.背景

平成17年2月に旧佐野市・旧田沼町・旧葛生町の3市町の合併があり、合併後の新佐野市では佐野駅周辺の中心市街地をメインに地域活性化の取組みを進めてきた。一方、旧田沼町・旧葛生町の中心市街地であった田沼駅及び葛生駅周辺の地域は、行政の「中心市街地活性化基本計画」の対象地域とすることができず、取組みが進んでこなかった。令和3年3月に「佐野市立地適正化計画」が策定され、都市機能の立地を誘導し賑わいの創出を図る。現在の田沼では空き家の件数が増加しており、利活用可能な空き家の件数は約100件、さらに空き家・空き店舗を使った新規出店数は1件である。そのため、佐野市では、空き家・空き店舗を活用した田沼地域市街地のにぎわい創出に向けた施策の立案を行っている。



02.目的

背景から現状の田沼においては人々のつながりが希薄になっており、関係回復のための場が必要であると考えた。そのために田沼地域のなつかしの味の再現と写真展を同時に開催し、人々のつながりの再構築を促す場を創出し、にぎわいの場を提供することを目的とした。

03.私たちの歩み

2ndサイクルは当初の予定通り、写真展、懐かしの味を通して地域の方々の交流を促すことを目指した。「昔と今をつなぐ」をタイトルに、二次元コードを用いて写真を集めたり、商店街にポスターを掲示したりするなどの活動を行った。また、佐野市役所の職員さんからも写真を提供していただき、写真展を開催するための材料収集に取り組んだ。写真を集めると同時にイベントの概要や当日の動き、写真展のレイアウトを考え、10月27日にたぬまふるさと館でイベントを実施した。当初の想定を超える地域住民の方々がイベントに参加してくださり、田沼のこれからについて考えるきっかけや地域交流の場を提供することができた。私たちの今年一年の活動を知ってもらうために地域の方々に向けてパンフレットを作成した。また、3月の田沼地域のイベントで私たちの活動について市長や地域の方々に報告する予定である。

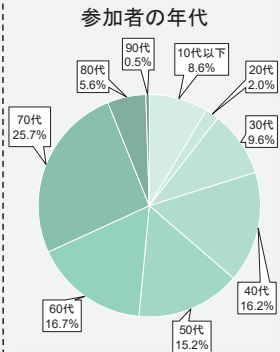


04.方法

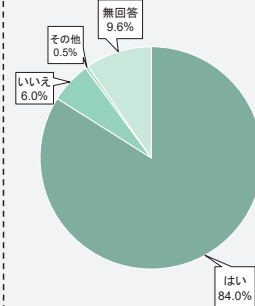
【現地調査】

実施日：2024年10月27日(日)
実施場所：たぬまふるさと館
写真展に来場された方々を対象にアンケートを実施した。
最終的な回答数は198件(男性77人、女性121人)

05.分析結果



田沼の街おこしに興味を持たたか？



アンケートの結果より

- ・イベントの来場者は30～50代の女性や60～70代の高齢者の方が多かった。
- ・田沼駅周辺の昔ながらの専門店などに貼られたポスターや友人からのクチコミをきっかけに来場した方が約半分を占めていた。
- ・田沼に対して寂しい印象を持っている人が一定数いた。
- ・PR方法としては買い物をしに町に出る主婦層や動き盛りを過ぎて生活が落ち着いてきた高齢者に対して効果的だとわかった。
- ・写真展には、私たちの予想以上の人々に足を運んでいただいたため、チョコケーキを試食できなかった方が多かったです。しかし、田沼のまちおこしに興味を持たたと回答した人が8割以上を占めた。
- ・チョコレートケーキの試食について「持ち帰ることができるよね」など、間違った情報が地域住民に広まっていた。これは私たちの情報記載不足が原因とも考えられるが、見方を変えると、それほど地域住民の間でこのイベントについての会話が盛り上がったとも考えられる。このことから近所づきあい等による世間話には地域を活性化させる力があるのではないかと考えた。

06.提案

【活動を振りかえって】

私たちはこれまで、「人々のつながりの再構築」を目標に、「懐かしの味復刻プロジェクト」と「写真展」の二つを企画しました。「懐かしの味復刻プロジェクト」では、多くの人がこれを話題に日常会話をされたと思います。市役所にも「チョコケーキについて話して懐かしかったよ」と電話をいただきました。私たちはこの動きを「つながりの再構築のきっかけ」だと考えています。また、「写真展」では、「頑張っている人紹介」や「Before After」を通して多くの人に、田沼の未来やまちおこしについて考える機会を作れたと思います。

【田沼のこれから】

まちに活気が戻るきっかけ、まちおこしについて興味をもつきっかけ、頑張っている人について知るきっかけ、というように様々なきっかけを作ることができました。ここからは「いかにこの動きを持続させる」、または「知らない人に広げていく」かが課題となります。様々な方法がありますが、私たちでも一つ方法を考えてみました。

【提案】

1. まちなかのカフェを交流とチャレンジの場所に
・この地域には、「みんなが気軽にいれる場所をつくり、田沼を盛り上げたい」という思いをもったカフェなどの飲食店があります。
2. 意識醸成の場へ
・田沼には、まちづくりに積極的な高校生や事業者、地域おこし協力隊などの多くのプレイヤーがいる。
・地域活性化の思いを持ったカフェをそのような方々の交流の場とし、そこから生まれた地域を盛り上げるための案を実行できる場にもする。
3. 持続可能な活動のための情報発信を
・交流の場を設けることで、イベント等が持続的に行われる。
・盛り上げたい人の繋がりが強くなることで、人のつながりの輪も広がります。
・イベントや交流の場の紹介をチラシやSNSで定期的に発信することで、多くの地域住民が関われるように情報を広める。